



▲タケノコの重量当てクイズ。持つのも一苦労です。

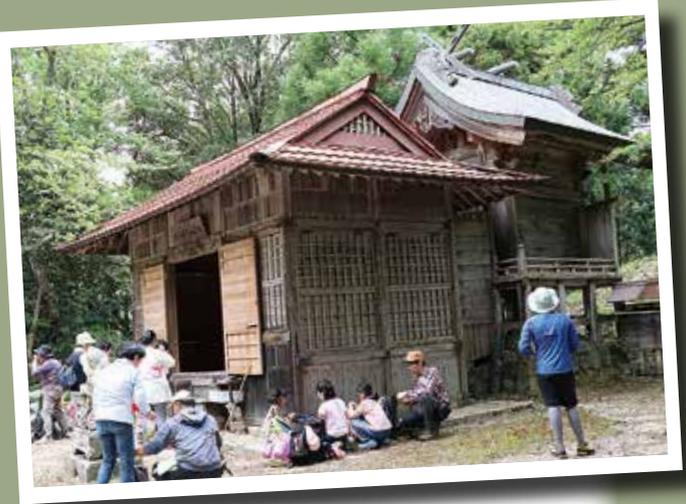
島田たけのこで春を味わう

島田たけのこをPRしようと4月22日、道の駅あらエッサで第6回たけのこまつりが開催されました。当日は島田加工農業協同組合の皆さんが、その日の朝に収穫したタケノコを販売。市内外から多くの方が買い求め、用意された250キログラムのタケノコはすべて売り切れました。また、若竹汁のふるまいが行われると、家族連れなどが長い列を作り春の味覚を味わっていました。

同組合の岩崎組合長は「県外からも来られていたので、島田たけのこを知ってもらえてうれしい。もっと多くの人に知ってもらいたい」と話していました。



まちの話題や出来事をご紹介します



イザナミ祭の比婆山神話登山ウオークでの一枚。約30分かけて山頂の比婆山久米神社奥の宮に到着。参加者は家族円満などの御利益を得られたことでしょう。(5月6日)

今月の一枚



ハガネの産地に 全国から刃物の匠が集う

5月4・5日に第23回やすぎ刃物まつりと関連イベントが安来町周辺で開催され、多くの人でにぎわいました。今年は全国の刃物産地から40社が展示販売。来場者は直接、匠から刃物の特徴や手入れ方法などを聞きながら思い思いの刃物を買っていました。

◀お父さんと刃の研ぎ具合を確認する佐藤さん(左)。指導した三木市の匠いわく「肥後守に使う青紙は切れ味がすばらしい」。

一方、安来アウトドアナイフショーの会場となった安来商工会議所では、^{ひこのかみ}肥後守を作ることができる手作りナイフ教室を開催。兵庫県三木市のカスタムナイフギルドの皆さんの指導で、サヤと刃をリベットで連結すること、刃を研いでいく工程を参加者は体験しました。この刃に使われている素材はヤスキハガネの青紙(鋼材の種類)を使用しています。

お父さんに勧められて参加した佐藤太一さん(松江市)は「刃の根元を研ぐのが難しかった。完成したら家にある短くなった鉛筆を削ってみたい」と話していました。



丘全体にツツジ、 古代出雲王陵の丘

日本遺産「ト蔵新田」を見下ろす丘の斜面一帯に広がるツツジ。下から見上げても上から見下ろしても見事な咲きっぷりです。甘い香りに誘われて多くの人が花見に訪れていました。

各地で花が満開。初夏の名所が多くの人でにぎわう。

田園に咲くシバザクラ、東比田地区

平成26年から植え付けが始まった東比田・猿隠高原のシバザクラ。年々、範囲が拡大され今年も3カ所で約5.5ha以上に。白・赤・ピンク色のじゅうたんが田園に広がっていました。



伯太を彩るチューリップ

今年で30回目となる「はくたチューリップ祭」が4月15日に安来市役所伯太庁舎周辺で開催されました。今年も新たに10種類を追加し、彩りを増したチューリップ畑。約2haの畑には60万本のチューリップが咲き誇り、家族連れでにぎわいました。

また、ステージでは伯太太鼓などの演奏が披露され会場を盛り上げました。今年の注目ゲストの「Jubilee jubilee (ジュビリージュビリー)」と「homme (オム)」のライブでは多くのファンも駆けつけ大盛況でした。



▼ライブで盛り上げてくれた「Jubilee jubilee」グループ。

山佐ダムで特別授業

地元の人たちで結成されたYamasa Club(ヤマサクラブ)主催の「山奥の楽しい課外授業」が4月29日に山佐ダム周辺で開催されました。この催しは家族みんなが山佐の大自然の中で楽しめるようにと5年前から企画されています。

会場で注目を集めたのが巨大な竹製の遊具。手作りのブランコや滑り台では子どもたちの楽しそうな声が響いていました。また、ステージでは尼子太鼓やしまね暮らし応援隊バンドが演奏を披露。子どもの歓声と音楽が会場を包み、訪れた人は自然あふれる山佐で時間を忘れて楽しんでいました。



▲竹製滑り台は思った以上のスリルです。